

令和元年度の学校評価

本年度の重点目標	①教科指導の充実 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④学校の活性化 ⑤防災・保健・相談活動の充実 ⑥情報社会への対応 ⑦職場環境の整備		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価と課題
総務部	広報活動 防災活動	HPの有効活用、中学生体験入学の実施 方法の練り直し 津波避難訓練・火災避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生体験入学を夏休み開催にしたことで、西尾市内中学校からの参加生徒が増加した。中学校からの評判は良かったので、暑さ対策を考慮しつつ夏休み中の開催とする。学校説明会は内容をより充実する。 ・防災活動は、津波を想定した3校合同避難訓練を全校生徒で実施することでできて良かった。火災避難訓練は、出火場所の想定を毎年変え、安全に避難ができるようにする。 ・ホームページについては、内容の更新が遅かった。今後は、随時更新する。
教務部	基礎学力の向上	魅力ある授業実践 評価方法の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンが更新されたことにより、ICT機器が活用しやすくなり、生徒の知的好奇心を高めるような工夫を凝らした授業が実践されている。プロジェクターの使用頻度が高まり、機器の不足が発生している。 ・授業公開週間や研究授業を通して、教員間で情報共有し、よりよい授業展開や評価方法の研究ができるように、各教科で検討が行われている。
生徒指導部	ネットトラブルの防止 交通安全意識の向上	情報モラル講話 ネットパトロールの活用 「心のアンケート」の見直し・検討 交通安全講話 被害や苦情の情報提供 交通指導立ち番	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットトラブル防止のために情報モラル講話、生徒指導主事講話、不審者対策講話、人権講話、「心のアンケート」等を実施。年度後半は、ネットパトロールからの報告はなくなったが、個人情報掲載や誹謗中傷は現在もなくなっていないので粘り強く指導を続けていく。 ・交通マナー向上のために、1学期に交通安全講話を実施。2学期に学校近隣の通学状況を調査し、生徒の動線の把握をもとに、交通立番の改善と近隣の交通ハザードマップを作成した。安全運転を意識する生徒も増えている。保護者には、「きずなネット」でメール配信を行い、送迎時の交通マナー遵守を依頼している。
進路指導部	主体的に進路実現に向かう力の育成	進路ガイダンスの充実 補習等の効果的な実践	<ul style="list-style-type: none"> ・早期より就職ガイダンスを行い、大半の生徒は前向きな進路選択ができたが、主体的に就職に向かえなかった生徒もいた。より効果的なガイダンスを検討していきたい。 ・生徒が自ら集中した学習環境を作り、主体的な進学意識を十分に育てることを目的に、さらなる進路指導を行っていきたい。
保健部	生徒の健康増進 環境美化 安全の推進	健康観察や自己管理能力の向上 美化委員会の活動の活性化 安全点検の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝生徒の健康観察を実施し、心身の健康を確認している。「保健室利用証」導入により、教員の生徒の体調管理の意識が向上した。また、スクールカウンセラーに多くの生徒、保護者、教員の相談があった。相談内容が多様化しており、職員間での情報の共有を図り、支援を行っている。今後も、担任・養護教諭との連携を密に行い生徒対応を行っていく。 ・美化委員による月1回の安全点検を行い、環境整備に努めている。生徒が主体的に環境美化に努める意識づけになっている。教員による安全点検も行うことで、生徒と連携し、環境整備に繋げることができた。
生徒会部	部活動の活性化 生徒会活動の充実	学年会、部活動顧問との連携 部活動における安全の確保 生徒会顧問教員、生徒会役員、常任委員会の、三者間の協力	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に各部活動の方針、受入れ可能人数を調査し、1年生に伝えた。これにより、希望部に入れない状況はなくなり、部活動活性化につながった。安全面では、各部活動で女子生徒の下校指導がしっかり行われた。 ・常任委員会活動は、定められた仕事にしっかりと取り組むことができたが、自主的な発案や活動までには至っていない。教員のサポートがあれば、自主的な活動の芽が育つが、なかなか実現していない。まずは、活動の枠組づくりに取り組む。
情報管理部	図書館業務及び情報処理システムのマニュアル化	各種業務をマニュアル化する	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をほとんど達成できなかった。次年度は、少しでもマニュアル化できるよう努める。 ・情報機器管理の後継者育成を進める。
3年	自覚と責任 自主性と協調性 進路目標の実現	最上級生としての役割の自覚 身だしなみ指導 学校行事を軸としたリーダーシップの育成 進路実現の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定者が増えるとともに気も緩みがちとなり、身だしなみの心配があったが、卒業式に向けての指導に従った。保護者の協力も含め、入学時からの指導の積み重ねがやはり大事である。 ・学校祭では最上級生であることを意識し、リーダーシップを取り、よく努力した。 ・教員の指導や助言のもと、生徒は進路実現のためによく努力した。しかし、就職試験開始後に進学から就職へ変更する生徒もおり、進路指導の難しさを実感した。真面目に授業に取り組んできた生徒が学力を伸ばしていったことは好ましかった。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価と課題
2年	自覚と責任 学力の向上 進路目標の設定	集団の中での役割の自覚 遅刻の防止 授業への前向きな取組 個別学習指導 LTやKT、個人面談の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導については、2年生後半になるにつれ、指導が難しくなってくる場面が多く感じられた。卒業に向けてきちんとした身だしなみで学校生活を送ることができるようにする。 ・各自の目標も明確になってきており、進学希望の生徒は学習に取り組むようになってきた。 ・「自己PR講座」を活用して、各自の自己PR文の完成に努めた。次年度の進路実現のために生かすアドバイスを継続して行う。
1年	生活や行動の自立	基本的生活習慣の確立 部活動・ボランティア活動の推奨 基礎基本の定着、授業規律の向上、家庭学習の充実 多様な進路研究と職業観の育成、類型・コースの選択	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣が確立し、落ち着いた様子で学校生活を送れている生徒が多い。身だしなみも概ねは良好だが、一部生徒に服装・頭髪の乱れがある。また、2学期以降、遅刻数が増加したのも残念だった。 ・年度初めは課題の未提出や不備が多かったが、徐々に改善された。成績不振者への指導に加えて、今後は学力上位層の力を伸ばすための指導にも一層力を入れていく。 ・類型・コース選択に向けて、LT・KT等の時間を使って、説明会や外部講師による講話、調べ学習を行った。今後もオープンキャンパスへの参加を促したり、進路ガイダンスをより充実させたりして、生徒各々に合った進路目標を設定する。
生活文化科	キャリア教育の充実 基礎基本の徹底と向上	進路について目標設定と進路実現へのキャリア教育の確立 検定などの基礎基本の徹底と、外部講師の導入などによる教科指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路について、インターンシップや進路ガイダンス等を行い、働くことの意義、挨拶の練習、希望別体験授業を通し、主体的に考えさせることができた。また、外部講師を招いての実習は、生徒がより深く考えるきっかけとなった。今後も継続する。 ・基礎基本の習得については個人差が大きく、一定レベルに到達させることに苦戦した。検定や実習を通して、基礎基本を習得することができ、卒業研究作品発表会等に生かすこともできた。今後は、より主体的に取り組ませ、知識技術の向上を目標に丁寧な指導をしていく。
総合評価			<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上の授業を継続して実践するとともに、ICT機器を活用した授業展開や評価方法の検討をする。 ・粘り強くネットトラブル防止の指導を継続する。 ・保護者向けの進学資金研修を早急を実施する。 ・自然災害、情報漏洩、感染症発生等の緊急事態に対応できるマニュアルを作成する。